

## 令和2年度 第1回大阪府河川整備審議会 議事要旨

日時 : 令和2年5月28日(月) 10:00~11:36  
場所 : 大阪府庁別館7階都市計画室分室  
出席者 : (委員) 阿部委員・市川委員・里深委員・柴田委員・多田委員・馬場委員・弘本委員・  
船曳委員・松井専門委員

計9名(欠席:鶴田委員)

### まとめ

#### (1) 会長の選任について

- ・委員の互選により市川委員が会長に選任された。

#### (2) 安威川ダム建設事業の事業評価について

- ・「安威川ダム建設事業の事業評価」については、府民意見募集を開始し、現地視察を実施した上で次回以降継続審議とする。

### 概要 : [以下、○委員 ●事務局]

#### (1) 会長の選任について

- ・委員の互選により市川委員が会長に選任された。

#### (2) 安威川ダム建設事業の事業評価について

- 非常用洪水吐きの法面変状について、変状の理由が地下水位の上昇ということだが、変状が起きた際の降雨と同規模な降雨が発生し、再度、地下水位が上昇した場合、排水がより促進されるような対応をとっているのか。
- ご指摘の点は検討している。
- 対応方針(案)の事業の必要性等について、社会が大きく変化しているが洪水や豪雨も頻発していることから事業の重要性、必要性は変わらず高いということを記載すべきでは。
- ご指摘のとおり修正する。
- 今回の事業評価に新型コロナウイルスの影響は含まれるか。
- 新型コロナウイルスの影響について、その経済的な影響も今度はある可能性があるが、現状、その影響は不確定要素があるため今回の変更には含んでいない。今回の変更では、物価の上昇として、前回変更以降(平成29年度)から事業完了予定の令和元5年度までの物価上昇率を外挿し、ダムの計画上、現在想定できる最大の変化を見込んでいる。
- 非常用洪水吐きでどの程度の超過降雨に対応できるのか。
- ダムの計画規模は100年確率だが、非常用洪水吐きは200年確率までの降雨に対して放流可能な構造としている。
- 費用便益比B/Cについて、今回の評価では便益が非常に大きくなっているが、その理由は。
- 今回、マニュアルが変わり、被害額率が見直され、便益評価時期の変更に伴う資産データ精度の向上やデフレーターによる各資産価値の上昇により便益が上昇した。
- コア材の採取位置の変更に伴う追加コストは発生したのか、今後発生する可能性はあるのか。
- コア材採取位置の変更及び採取後の法面対策も含めて今回の変更内容に計上している。
- 想定外降雨対策に対して、全てハード整備での対策は難しい。地域住民と一緒に防災に取り

組むことが必要となる。地域の避難行動、防災行動等にどうつなげるか具体的な取り組みは実施しているか。

- 今後、周辺整備の中で様々な活動が展開されていくというところを踏まえ、支援についても、洪水リスクに対する理解を深め、安威川ダムの重要性や洪水調節の機能について学習いただく防災教育の場というところを、その一つとして展開していくなど府としてどのように情報発信していくか、検討していく。
- また、リスクコミュニケーションについて、これまでも市町村と連携しながら、どのタイミングでどう逃げるかということについては議論しており、ダムが完成すれば終わりというわけではなく、引き続き市町村と連携しながらリスクコミュニケーションに努めていく。また、超過洪水に対しては、安威川ダムだけを見ると超過洪水でどうだという議論になるが、その時点ではダム下流の河川ではほぼ満水に近い状態になっているため、まず洪水リスクから逃げてくださいという住民の避難行動をとっていただかなくてはならないため、そのためのリスクコミュニケーションを流域全体で市町村と連携して取り組んでいく。
- 環境保全対策について、ここ1、2年の豪雨等の影響によって、例えば左岸道路でかなり崩落、崩壊が認められているという話があったが、これは想定外の降雨量によって起こったことか。
- 今回の左岸道路周辺の貯水池周辺の法面変状、それから自然斜面の崩壊については、これまでの雨では、そういった現象は生じていないため、今回、想定外の大きな雨を受けての事象であったと認識している。
- 第2コア山、第3コア山に関しては、環境保全も視野に入れた採取の仕方というものが計画されているのか。生態系の回復も含めてどのような環境保全、環境の再生を考えているのか。
- モニタリング計画や、その評価等について、大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会で審議いただく予定。
- 環境保全対策が示されているが明確ではない。PDCAで実施するのはいいが、何を、どこに、どういう目標があって、そのPDCAを実施しているのか、どこかでより明確に示しておく必要がある。今後、大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会で検討するのか。
- 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会の中でも十分に審議する。
- 今回の費用追加で、労務費、資機材費で、26億円というなっている。労務費と資機材費の割合は。
- 次回報告する。
- 全体工期について、今後、大きな雨が降り、非常用洪水吐きにあったような大きな変状がない限りは、工程が遅れることはないか。
- 問題ないと考えている。
- 「安威川ダム建設事業の事業評価」については、府民意見募集を開始し、現地視察を実施した上で次回以降継続審議とする。